

事業シート

総合戦略事業 事業シート

No.	1	年度	令和元年	担当課	企画課								
事業名	東近江地域広域婚活事業												
総合戦略における位置付け	(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ①気軽に相談できる機会を設ける												
	重要業績評価指標 (K P I)	当プロジェクトによる婚姻数											
			数値	単位	時期								
		基準値	新規	組	H27								
	目標値	10	組	R1									
事業の目的	東近江圏域における少子化対策として、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる観点から、まず結婚の前提となるカップリングを目指した事業として、結婚を望む方々に対して、自分たちが住む町以外の方々と交流し、数多くの出会いの場を設定することにより、結婚の前提となるカップルの成立をめざす。												
昨年度までの実績	◎平成28年度 広域婚活事業（福井県小浜市と実施） → 男性17名 女性20名参加 6組12名のカップル成立 → うち2組4名が成婚（H29. 11とH30. 10 確認） ◎平成29年度 東近江地域広域婚活事業（東近江市、日野町、竜王町、当市が連携） → 男性25名 女性25名参加 10組20名のカップル成立 → うち2組4名が成婚（H30. 4とH31. 1 確認） ◎平成30年度 東近江地域広域婚活事業（同上） → 男性20名 女性18名参加 6組12名のカップル成立												
今年度事業予定	○事前講習会の実施(R1. 9. 7開催) ・東近江地域において、結婚の希望を叶える取組を行うにあたり、婚活参加者を対象に、婚活事業に臨む姿勢や必要なスキルを事前に学び、実践につなげることで、婚活でのカップル成立率の向上を図る。 ・婚活イベントの参加要件として位置付ける。 ○婚活イベントの実施（R1. 10. 5開催・会場はグリーンホテルYes近江八幡） ・東近江地域において、結婚の希望を叶える取組を行うにあたり、自分たちが住む町以外の方々と交流し、数多くの出会いの場を設定することにより、結婚の前提となるカップルの成立を目指す。 ○縁結びサポーター研修会の実施（R1. 11月頃開催予定） ・職場の縁結びサポーターや新たな企業を募集することに加え、本年度は地域福祉を推進するサポーター等も含めて、少子化対策における結婚支援の必要性について、各地域の課題でもあるという現状を学ぶ機会として開催し、結婚に対する支援に係る気運の醸成を図る。 以上の事業を、滋賀県自治振興交付金（提案事業・市町連携）を活用し実施する。												
	重要業績評価指標 (K P I)	カップル成立											
			数値	単位	時期								
		基準値	—	—									
目標値		6	組	R1. 10. 5									
	実績	H28末	H29末	H30末									
6 組		10組	6 組										
達成状況	概ね達成している（☆☆☆）												
予算		内訳	金額（円）		内訳	金額（円）							
	1	報償費	40,000	6									
	2	消耗品費	10,000	7									
	3	広告料	54,000	8									
	4	印刷製本費	108,000	9									
	5	使用料及び賃借料	82,000	10									
	合計					294,000							
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	募集期間			事前講習会			← アンケート調査 →						
							婚活イベント						
							サポーター研修会						

総合戦略事業 事業シート

No.	2	年度	令和元年	担当課	企画課								
事業名	未来づくりキャンパス事業												
総合戦略における位置付け	(2) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④地域の未来につながる活動と人材を創出する拠点を形成する (1) 未来につながるテーマについて、市民と学生が共に創造的・実践的に学ぶ場として「近江八幡未来づくりキャンパス」を設置												
	重要業績評価指標 (K P I)	当プロジェクトから生まれたアクション数											
			数値	単位	時期								
		基準値	(新規)	件	H27年度								
	目標値	3	件	H31年度									
事業の目的	地域資源を活用しての、地域の社会的課題の解決につながる生業づくりや、社会起業を構想・実践する人が創出される仕組みづくり。 本市が直面する地域の課題解決を、自らの問題として捉え、魅力的な近江八幡市をつくる自立的なアクションが生まれることをめざす。												
昨年度までの実績	【地域資源活用塾の企画・運営】 ○講座開講 地域の課題解決や地域づくりのノウハウ、活動の具体化に向けた手法等を指導。H30年度より、基礎知識をレクチャーする専任講師に加え、各回講座に先進地における実践者など、毎回異なる講師を招聘した。 H28年度 ⇒ 全4回（塾生：17名） H29年度 ⇒ 全4回（塾生：15名） H30年度 ⇒ 全4回（塾生：25名 実践コース12名、入門コース13名） ○グループワーク 塾生をテーマ毎にチーム分けし、開講期間中を通じて自主的なグループワークを実施。チームにはメンター（伴走者・アドバイザー）を配置し、活動の進捗管理や、チームへの助言を行うことで継続的な支援を実施。 また、各チームの実情に合わせて専門家や実践者から個別のレクチャーを実施。 ○成果発表会開催 チーム毎に活動結果、及び今後の事業計画等について発表、塾長（市長）や有識者より講評、アドバイスを実施。その後、来場者を含めたパワーアップ会議を開催。 塾生の活動内容・計画に対し、より良いものとするための意見交換を行った。												
今年度事業予定	○方向性の再検討 これまで計3回の「地域資源活用塾」開催結果・受講生アンケートからは、若者層からの評価が高く、また具体的な活動に結びつくケースもあった。 また、本市が推し進めるSDGsの見地からも、次世代を担う若者の育成が必要であることから、より若者層にコミットした事業内容への転換を検討中。 【経過】 ○年度当初、ESD（自足可能な開発のための教育）の観点を取り入れ、若者（概ね30歳まで）を主な対象としたプログラムとして計画したが、国の補助が得られず、手法の見直しを行っている。 ○自主財源のみでの事業展開とするにあたり、大幅な事業費の削減が必要。 ○しかしながら、持続可能な社会の実現に向けて次世代を担う若者が学ぶ場の提供は必要な取組であり、環境分野の中・高生向け講座開講を検討中。 フィールド学習を取り入れ、自ら考え、自発的に行動することのできる人材育成をめざす。												
	重要業績評価指標 (K P I)	当プロジェクトから生まれたアクション数											
			数値	単位	時期								
		基準値	0	件	H27年度								
目標値		3	件	H31年度									
	実績	H28末 0	H29末 2	H30末 4									
達成状況	概ね達成している（☆☆☆）												
予算		内訳	金額（円）		内訳	金額（円）							
	1	報償費	168,000	4	役務費	40,867							
	2	旅費	27,840	5	委託料	3,290,403							
	3	需用費	20,000	6	使用料及び賃借料	25,920							
	合計					3,573,030							
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	委託契約締 ● → 受講生募集期 → 講座開講期												

総合戦略事業 事業シート

No.	3	年度	令和元年	担当課	文化観光課								
事業名	「戦国・安土」を活かした観光プロモーション												
総合戦略における位置付け	(2) 新しいひとの流れをつくる ①地域資源を活かした新たなひとの流れをつくる												
	重要業績評価指標 (K P I)	観光入込客数 (滋賀県観光入込客統計調査)											
			数値	単位	時期								
		基準値	3,021	千人	H 2 5								
		目標値	3,300	千人	H 3 1								
事業の目的	2020年放映予定のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」に織田信長公や安土城が登場することから、安土の観光振興の絶好の機会ととらえ、行政だけでなく、観光関連団体、商工関係団体等が一体となって、「戦国・安土」の魅力の再発見、発信・PRを行い、一過性に終わることない持続性と将来性のある観光振興を図る。												
昨年度までの実績	* 令和元年度新規事業												
今年度事業予定	○コンテンツの整備 ・地域の認知度向上と誘客促進を目的とし、安土信長のロゴマークを制作し活用推進を図る。 ・安土地域ならではの食材、郷土食の掘り起しを行い、市内の飲食店・土産品と協力し、ストーリー性のある食事や物産、土産物を開発、展開する。 ○プロモーション ・滋賀県・びわこビジターズビューローが展開する戦国キャンペーンとも連携し、オープニングイベントを開催する等、より効果的なPRの展開。 ・当地ならではの立地を活かし、当時主流であった湖上交通活用した観光ルートを開発するとともに、ツアー造成を促進するため旅行会社と連携したモニターツアーの実施。 ・滋賀県・びわこビジターズビューローが展開する戦国キャンペーンの積極的な参加と、県内外の関係市町とも連携しキャンペーン等を積極的に活用した情報発信を行う。 ・地元住民の郷土愛やふるさとへの誇りを高め、自らが積極的に魅力づくりに取り組む意識の醸成のための学習の機会としてふるさと学習会の開催や市民ガイド養成講座等を開催。												
	重要業績評価指標 (K P I)	観光入込客数 (滋賀県観光入込客統計調査)											
			数値	単位	時期								
		基準値	3,021	千人	H 2 5								
目標値		3,300	千人	H 3 1									
	実績	H28末 4,833千人	H29末 5,339千人	H30末 5,476千人									
	達成状況	達成している (☆☆☆☆)											
予算		内訳	金額 (円)		内訳	金額 (円)							
	1	委託料	3,000,000	6									
	2			7									
	3			8									
	4			9									
	5			10									
	合計					3,000,000							
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	入札・契約 オープニングイベント 協議・資源の磨き上げ・情報発信												

総合戦略事業 事業シート

No.	4	年度	令和元年	担当課	文化観光課								
事業名	インバウンド誘致事業												
総合戦略における位置付け	(2) 新しいひとの流れをつくる ①地域資源を活かした新たなひとの流れをつくる												
	重要業績評価指標 (K P I)	外国人入込客数											
			数値	単位	時期								
		基準値	3,275	人	H 2 6								
	目標値	3,500	人	H 3 1									
事業の目的	戦国時代やその後の歴史の変遷から形作られた現在の近江八幡の町並みや風景、文化、また世界的ブランドである織田信長、安土の魅力をも国外、特に日本文化に関心の高い欧州地域（フランス、イタリアを中心）にPRするための多言語による動画やパンフレット作成等により情報発信を強化し、インバウンド誘致を図る。												
昨年度までの実績	観光情報プラットフォーム多言語化、I C T, I o T機能拡大等。既に構築しているW i - F i やプラットフォームサイトの多言語化や機能拡大強化を図った。 平成28年度：市内観光施設等へのWi-Fi整備や観光アプリの多言語化 平成29年度：台湾・香港向け本市PR動画の作成 平成30年度：インバウンド観光サイン調査分析業務												
今年度事業予定	○インバウンド用プロモーション動画・パンフレット制作 ・本市がインバウンド誘客に重点を置いている、欧州（特にフランス・イタリア）をターゲットとし、本市の魅力を紹介したプロモーション動画・パンフレットを制作し、首都圏・海外での旅行エージェント商談会等での放映やW e b等を活用した積極的なプロモーションを行うことで、世界での近江八幡市の知名度向上を図り、インバウンドの誘客につなげる。												
	重要業績評価指標 (K P I)	外国人入込客数											
			数値	単位	時期								
		基準値	3,275	人	H 2 6								
		目標値	3,500	人	H 3 1								
		実績	H28末 2,729	H29末 4,285	H30末 5,629								
	達成状況		達成している (☆☆☆☆)										
予算		内訳	金額 (円)		内訳	金額 (円)							
	1	委託料	3,000,000	6									
	2			7									
	3			8									
	4			9									
	5			10									
	合計					3,000,000							
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	プロポーザル・契約 動画等の制作 発信												

総合戦略事業 事業シート

No.	5	年度	令和元年	担当課	文化観光課									
事業名	観光動向調査・データ分析													
総合戦略における位置付け	(2) 新しいひとの流れをつくる ①地域資源を活かした新たなひとの流れをつくる													
	重要業績評価指標 (K P I)	観光入込客数 (滋賀県観光入込客統計調査)												
			数値	単位	時期									
		基準値	3,021	千人	H 2 5									
		目標値	3,500	千人	H 3 1									
事業の目的	新たなひとの流れを創り、地方創生を達成するため滋賀県や周辺地域の連携を強化し、地域一体となって、まちづくり観光を推進するため観光情報マネジメントの視点により戦略的に取り組むことを目的とする。													
昨年度までの実績	* 令和元年度新規事業													
今年度事業予定	○効果的な誘客を図るための観光動向調査・データ分析 ・観光客の動向、旅行消費額、満足度等を調査・分析することにより、地域の実情に即したより効果的な観光振興を図り、とくに市全体で観光客数が増加しているのに反し、微減傾向にある安土地域への誘客強化を図る。調査・分析業務は市が支援する日本版DMO候補法人の(一社)近江八幡観光物産協会にて実施し、本市の観光戦略、地域マネジメント等に活かしていく。													
	重要業績評価指標 (K P I)	観光入込客数 (滋賀県観光入込客統計調査)												
			数値	単位	時期									
		基準値	3,021	千人	H 2 5									
		目標値	3,500	千人	H 3 1									
		実績	H28末 4,833千人	H29末 5,339千人	H30末 5,476千人									
	達成状況		達成している (☆☆☆☆)											
	予算		内訳	金額 (円)		内訳	金額 (円)							
		1	委託料	2,000,000	6									
		2	(9月補正予定)		7									
3				8										
4				9										
5				10										
合計					2,000,000									
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	→ 入札・契約										→ 調査実施		→ 分析・報告	

総合戦略事業 事業シート

No.	6	年度	令和元年	担当課	健康推進課								
事業名	近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業												
総合戦略における位置付け	(4) 時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守る ④健康長寿の安寧のまちをつくる (4) 生涯を通じた健康長寿をサポートする福祉・医療の充実												
	重要業績評価指標 (K P I)	シニア層の就業者数 (国勢調査)											
			数値	単位	時期								
		基準値	1,682	人	H22年度								
		目標値	2,000	人	H32年度								
事業の目的	地域における0次予防に係るプラットフォームを整備することで、従来の1次予防から3次予防という疾病対策に偏った対策ではなく、その人らしい生き方・死に方を実現するための基盤としての「0次予防」を実現するとともに、地域人材の育成・活用、地域課題のソーシャルビジネス化を通じ、高齢者が健康でアクティブに生活できる生涯活躍のまちを推進することを目的とする。結果、行政課題である医療費・介護費用の抑制を図る。												
昨年度までの実績	平成30年度は事業スタートの年度であり、当施設の目的を市民周知していくことを第1とし様々な機会を通じて啓発を行い、以下の5事業を展開した。 1. 健康情報発信センター運営事業：市民が自身の健康状態や健康づくりの結果を把握する機会として測定機器の活用促進。測定は健康サポーターが担い健康維持への動機付け・強化を行った。 測定人数 実数432人 2. 健康未来食品販売事業：発酵食品を使った健康食をランチとして提供。健康的な食事を体験できる場として健康サポーターが調理販売を担当 (カフェは毎日・ランチは週1回提供) ランチ40回 延842人 カフェ 延754人 3. 健康サポーター自立支援事業 (人材養成)：0次予防に資する人材養成として、市民自らが地域での様々な役割を見出し生涯現役として活躍し続けることであり、サポーター養成講座を開催。 高齢者の居場所養成講座 24人 4. まちの保健室相談事業：体力チェック後の相談を実施。また、様々な専門スタッフによるサロンを定期的に開催。 排泄 5回 延62人・栄養 2回 延15人・コミュニケーション2回 延17人 5. 健康サポーター活躍事業：0次予防センターにおいて健康サポーターが情報発信や健康未来食品販売事業において活動。それ以外でも、各地域や居場所の運営に活躍しているサポーターが多く、サポーターの体力維持を目的とした講座を実施。 体力維持講座18回												
今年度事業予定	1. 健康情報発信センター運営事業：市民が自身の健康状態や健康づくりの結果を把握する機会として測定機器の活用促進。測定は健康サポーターが担い、健康維持への動機付け・強化を行う。 2. 健康未来食品販売事業：発酵食品を使った健康食をランチとして提供する。健康的な食事を体験できる場として健康サポーターが調理販売を担う。ワンディキッチンを一例とする、民間導入を検討する。 3. 健康サポーター自立支援事業 (人材養成)：0次予防は、市民自らが地域での様々な役割を見出し生涯現役として活躍し続けることであり、それに資する人材育成として高齢者の居場所づくりの支援者講座を開催する。 4. まちの保健室相談事業：医療機関のない小学校区における、身近な相談機能を担う。また、様々な専門スタッフによるサロンを定期的に企画開催する。 5. 健康サポーター活躍・波及事業：健康サポーターへ情報提供や話し合いの場を提供し、活動の場を見出したり広げたり仲間づくりの支援を実施する。												
	重要業績評価指標 (K P I)	0次予防における健康サポーターの認定数											
			数値	単位	時期								
		基準値	55	人	H30末								
		目標値	50	人	R1末								
		実績	H28末 0	H29末 37	H30末 55								
達成状況	概ね達成している (☆☆☆)												
予算		内訳	金額 (円)		内訳	金額 (円)							
	1	施設維持管理事業	2,268,000	6	運営事業	8,735,000							
	2	(内 光熱水費)	792,000	7	(内 報償費)	1,091,000							
	3	(内施設維持委託料)	1,342,000	8	(内運営支援委託料)	6,162,000							
	4			9	(内 備品購入費)	85,000							
	5			10									
		合計				11,003,000							
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	人材育成講座通年実施 (前期・中期・後期・再教育)												
	条例改 ワンディキッチンの導入検討												

総合戦略事業 事業シート

No.	7	年度	令和元年	担当課	健康推進課								
事業名	共生型居場所づくり＆コグニウォーク推進事業												
総合戦略における位置付け	(4) 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守る ④健康長寿の安寧のまちをつくる (3) 生涯を通じた健康長寿をサポートする福祉・医療の充実												
	重要業績評価指標 (K P I)	-											
		基準値	-	-	-								
		目標値	-	-	-								
事業の目的	高齢者のフレイル予防や認知症予防に重要な筋力低下予防・低栄養予防・自己管理能力向上・社会交流を一体的に体験・学べる環境を整備する。また0次予防センターで育成した健康サポーターが生涯活躍できる場を創出する。共生型の環境整備により高齢期以外の市民の運動環境の提供にも繋がり、結果として多様な世代の地域づくりに寄与することができる。 また、健康はちまん21プランに位置づく運動環境の整備を目的として、既存の社会資源を利用することで、市民、社会資源など地域と密着した事業展開ができ、健康づくり環境の可視化が可能となり、企業が社会貢献ができ加えて自立支援の考え方の認識が高まる。												
昨年度までの実績													
今年度事業予定	市内3か所のコグニウォーキングコースの整備を行い、拠点にて低栄養予防の食事や生活習慣病予防に資する食事を提供し、栄養改善と適正な食について体験学習を実施する。フットケアや効果的な歩き方を学ぶことにより、筋力低下予防など運動効果を高める学習体験を提供する。また、参加者が歩数の目安を知ることや脈拍の測定を行うことで、運動効果や自己管理能力を高める。 今年度は介護事業所等において生活支援コーディネーターを中心に、コグニウォーク参加者とボランティア等の交流により、役割の創出や意欲の向上を図り、介護予防に取り組む。加えて、運動を通じて、世代交流の拠点となり、「健康はちまん21プラン」で目指す、個人の予防だけでなく、地域の健康づくりの環境整備に取り組む。市内の介護施設等や空スペース等既存の社会資源を活用した高齢者の居場所や運動・栄養指導の機会をつくり、フレイル対策と認知症予防等の対策を一体的に実施する。												
	重要業績評価指標 (K P I)	「コグニウォーク」延参加者数											
			数値	単位	時期								
		基準値	0	人	-								
		目標値	600	人	R3年度末								
		実績	H28末	H29末	H30末								
	-		-	-									
	達成状況												
	重要業績評価指標 (K P I)	「コグニウォーク」に協働して参加した延ボランティア数											
			数値	単位	時期								
		基準値	0	人	-								
		目標値	300	人	R3年度末								
		実績	H28末	H29末	H30末								
	-		-	-									
	達成状況												
重要業績評価指標 (K P I)	「コグニウォーク」に協働して参加した企業数												
		数値	単位	時期									
	基準値	0	社	-									
	目標値	12	社	R3年度末									
	実績	H28末	H29末	H30末									
-		-	-										
達成状況													
予算		内訳	金額（円）		内訳	金額（円）							
	1	報償費	440,000	6	備品購入費	139,000							
	2	消耗品費	336,000	7									
	3	印刷製本費	432,000	8									
	4	通信運搬費	370,000	9									
	5	保険料	60,000	10									
		合計				1,777,000							
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	市内3か所で実施(月1回1会場)												
	事業所や地域住民ボランティアなど協働体の開拓												

総合戦略事業 事業シート

No.		年度	令和元年	担当課	総合政策部企画課
事業名	安寧のまちづくり（C C R C）推進事業				
総合戦略における 位置付け	(4) 時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守る ④健康長寿の安寧のまちをつくる （1）生涯活躍のまちづくり（日本版C C R C）によるアクティブシニア層の 移住拠点の創出と新規就業のための多世代による支援体制の充実				
	重要業績評価指標 （K P I）	近江八幡市版C C R C整備箇所数			
			数値	単位	時期
		基準値	(新規)	－	平成27年度
		目標値	1	か所	平成31年度
事業の目的	近江八幡市ならではの魅力と資源を地域内外の人々との共創により活かし育て、最後まで元気に暮らせる「安寧のまち」（近江八幡市版CCRC）を立地環境や地域特性ごとにデザインし、その具体化を図る。				
昨年度までの実績	【平成27年度（平成26年度 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型・上乗せ））】 ○安寧のまちづくり（近江八幡市版CCRC）基本構想の策定 ○プロモーション事業（PR冊子・動画の制作、東京メトロ車内中吊り広告の実施） 【平成28年度（平成27年度 地方創生加速化交付金）】 ○安寧のまちづくり基本計画の策定 【平成28年度（平成28年度 地方創生推進交付金）】 ○プロモーション事業 【平成29年度（平成29年度 地方創生推進交付金）】 ○安寧のまちづくり推進計画の策定 ○安寧のまちづくり推進協議会の運営 ○共創プラットフォームの管理運営 ○提案募集事業（アイデアコンペ等）の実施 ○安寧のまち情報センターの運営 ○プロモーション事業 ○パートナー事業者募集を実施（場所：西の湖エリア、募集要項を策定し募集） 【平成30年度（平成30年度 地方創生推進交付金）】 ○安寧のまちづくり推進協議会の運営 ○共創プラットフォームの管理運営 ○拠点整備事業 ・西の湖エリア…事業の担い手となるパートナー事業者を選定し協定を締結。 WGを開催し意見を取りまとめ、事業計画を作成。 ・上記以外の4エリア…各拠点にてWSの開催などを実施し機運の醸成を図った。 ○安寧のまち情報センターの運営 ○プロモーション事業 ○パートナー事業者募集を実施（場所：西の湖エリア、募集要項を策定し募集）				
今年度事業予定	「近江八幡市安寧のまちづくり基本構想」に基づき、平成29年3月に策定した「近江八幡市安寧のまちづくり基本計画」の着実な推進を図るため、以下の各種事業を実施する。 （1）安寧のまちづくり拠点地域（西の湖エリア）の整備事業 平成30年度に作成した事業計画に基づき、市有地の整備をパートナー事業者と連携し、各法令の手続きを踏まえながら進める。 また、国有地についても、国に対し利活用出来るよう事業計画の構想を示しながら協議を継続していく。 （2）安寧のまちづくり拠点地域（西の湖エリア以外）の整備事業 今年度は4拠点の内2拠点で実施予定。 ・老蘇学区…WSや講演などを開催し、老蘇学区まちづくりのアクションプランを作成する。 ・沖島…お試し居住、空き家活用にかかるWS等を開催し、拠点整備に向けた機運醸成を図る。				

今年度事業予定	(3) 共創プラットフォーム活用運営 安寧のまちづくり拠点地域形成のため、共創プラットフォーム（リアル [プロジェクト研究会、ワークショップ] +オンライン [o8c.jp] ）を活用し、課題や意見・アイデアの収集、潜在移住者へ向けて情報発信等の広報活動を行う。 (4) 安寧のまち情報センター運営 移住希望者に対する相談窓口として安寧のまち情報センターを運営を行う。 地域おこし協力隊の募集を行い移住相談員として配置する。 (5) 安寧のまちづくりプロモーション 「何度も訪れたい場所（観光・交流）」から「移住」につなぐためロングステイに係るプロモーション活動を行う。 〈事業内容〉 モニターツアー開催、記事広告掲載、東京でロングステイイベントにおけるブース出展を行う													
	重要業績評価指標 (K P I)				「安寧のまちづくり」拠点整備のワークショップ参加者数									
					数値		単位		時期					
					基準値		人		R1					
					目標値		人		R3					
					実績		H28末		H29末		H30末			
	—		—				—							
達成状況				達成していない（☆）										
予算			内訳		金額（円）				内訳		金額（円）			
	1	報償金		2, 396, 000		6		使用料		30, 000				
	2	旅費		828, 000		7								
	3	需用費		268, 000		8								
	4	役務費		95, 000		9								
	5	委託料		9, 728, 000		10								
	合計										13, 345, 000			
今後のスケジュール	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	協議会								協議会				協議会	
	拠点整備事業(西の湖エリア)													
	拠点整備事業(西の湖エリア以外)													
	安寧のまち情報センターの運営													
プロモーションイベント														